第２号議案

令和２年度（２０２０年）事業活動報告

1. 小水力発電事業計画(地域社会貢献事業)

令和２年度ふじのくにエネルギー地産地消推進事業補助金（静岡県エネルギー政策課）40万円申請した。結果：不採用。

1. 事業の目的；寸又峡夢の吊り橋架け替え資金支援。

寸又峡温泉近く大間川の二つの沢（奥湯沢、湯沢）の取水権が、

 中部電力から静岡県庁へ戻されたとの情報を受けて、現地見学

 を経た上で、小水力発電の可能性調査（FS調査）総額132万

 円の補助金申請を４月２７日に行った（締め切り５月１５日）。

　　　当事業計画案は最終段階まで残り、６月３０日審査ヒアリン

　　　グを受けた。計画骨子は次の通り。

1. 中電が放棄した二つの沢の取水権を確保する。
2. 取水管理は寸又峡温泉が担当する。
3. 中電が使っていた取水堰を使い取水を再開する。
4. 既成の地下導水管を再利用する。
5. 二つの沢の水量（１５０〜２００Ｌ/毎秒）で湯山発電所の起電力は、年間約３０００万円増える（推定額）。
6. その半分を地域貢献費用として、地元に還元してもらう。
7. 新たな設備投資なく、利益が得られる。
8. 全ては中電との契約次第である。

　　　審査員のアリングは、私が計画説明１０分、審査員７人（

　　　静岡大水谷教授、中電社員、県庁課長クラス）質問２０分。

　　　感触は悪くなかったが、期日までに中電の意向が確認できず、

　　　７月に不採用通知を受け取った。

　　　同調して、ふじのくに未来財団と提携した「小水力事業計画」

　　（総額104万円）も凍結となった。結果、団体指定の未来財団

　　　助成金44万円が凍結状態となった。かなりの時間を割いて計

　　　画した小水力発電事業計画であるが、残念な結果で終了した。

1. 静岡の森づくり事業計画“里山の健康な森づくり”提案

７月２９日、日本山岳会静岡支部（JAC）の役員会へ提案した。

未来財団の団体指定助成金44万円の使い方も考慮して、森づくりを推進することにした。計画概要は下記の通り。

記

* 目的：里山の健康な森づくり事業
* 主催：NPO法人静岡山の文化交流センター、
* 共催・支援：日本山岳会静岡支部、静岡労山の会、他

　　　●対象地：①標高２００ｍ以下の里山

* 選択条件：①竹林化した里山

　　　　　②２ha以上

　　　　　　　　　　③急峻でない場所

　　　　　④交通至便で集まりやすい場所

* 協議：川合部農会を通して、地主の了解を得る。協定書締結が条件
* 助成金：公益財団法人静岡県グリーンバンク（GB）を通して林野庁

　　　　交付金の申請、未来財団の助成金申請、静岡市環境創造課へ

　　　　の補助金申請などが今後考えられる。

　　　選ばれたのは静岡市葵区瀬名の、竹林に覆われた川合山である。（写真）



1. 継続事業：育林事業

２０１７年度から開始した藁科川左岸大平見（標高７５０ｍ）での植林、育林事業は５年目を迎え、コロナ禍の中でも下草刈りを実施した。

①第１回草刈り　５月３０日、　１１人

1. 第２回草刈り　６月　６日、　１８人
2. 第３回草刈り　９月１２日、　１７人
3. 第４回草刈り　１０月２０日、　４人（仮払い機）
4. 第５回草刈り　１０月２７日、　４人（仮払い機）
5. 未来財団からの第一次助成金30万円（静岡トヨタ基金）事業に関する報告書提出。会計監査終了。１１月２０日報告会終了。
6. 協同組合静岡流通センターの森づくり（約1万坪）の依頼を受

けた。

　１１月２５日、流通センターにて、伊藤　晢理事長、上川専務理事から直接依頼を受けた。今後どうすればいいのか“グランドデザインを提示してほしい”との要望。１１月、１２月、森中を歩き回りグランドデザイン骨子を提示した。①基本は法面強靭化対策として植樹を重点的に行う、ということとした。

一方、敷地内の緩斜面で②果樹の生育に適した土地がある。

そこに、ポロタン栗圃場、ブルーベリー圃場、富有柿圃場等を整備して、身体障害者向けの働き場所も考えることにした。

　　仕事の進め方について、委託受託契約締結も考えたが、

　　流通センター側は、基本的に必要な材料は提供するので、NPO

　　へは見合うサービスに相当する金額の寄付という形を取りたい

　　との意向が示され、我々はそれを受け入れることに同意した。

　　第１陣の作業として、２０２１年２月流通センターが発注した

　　根巻苗７０本（欅３０本、唐楓２０本、紅葉２０本）を２月中

　　に植樹した。事前に10万円の寄付の振り込みを確認し、事後に

　　10万円の寄付受けた。植樹した苗は元気に育っている。

1. ２０２１年１月、県知事から「令和２年度　しずおか森づくり貢献証　マスター」の交付を受けた。



1. 川根自然ガイド養成講座：コロナ禍により中止
2. 光岳ルート整備事業計画：コロナ禍により延期
3. 会員増強計画：大幅なリクルート計画を構想したが、適正な対策を講じることができなかった。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以上